

第2回 第3期中海自然再生協議会 議事録

記

日時 平成23年8月6日(土) 16:30~17:30

場所 松江テルサ大会議室 (JR松江駅北口)

協議会に先立って日本生態学会が主催し、本協議会が共催する第3回自然再生講習会が、以下のように行われた(13時~16時30分)。自然再生推進法にもとづく自然再生とはなにか、その目標と現状についての解説があり、また講習会のテキストとなる日本生態学会(編)の「自然再生ハンドブック」が紹介された上で、3つの地域で実施されている活動の現状と課題が紹介された。中海の自然再生を進める上でも有益な、示唆の富む会であった。

「科学的知見は自然再生実施計画にどのように盛り込まれるのか

—いくつかの湖沼や湿原を例にして—

深泥池(京都府)の例 竹門康宏(京都大学)

霞ヶ浦(茨城県)の例 西廣 淳(東京大学)

八幡湿原(広島県)の例 中越信和(広島大学)

総合討論(司会 國井秀伸、島根大学)

引き続き協議会が16:30~17:30、以下のように実施された。

話題提供と自由討論(16:30~17:00)

- 1) 宍道湖・中海での浅場造成についての出雲河川事務所の取り組みについて
出雲河川事務所水環境課の伊藤 健課長から ppt 資料をもとに紹介がなされた。(資料は別掲)
- 2) 海藻刈りによる栄養塩循環システムモデル構築(鳥取県・島根県連携)の概要
鳥取県生活環境部水・大気環境課の近藤一幸室長から資料をもとに紹介がなされた。(資料は別掲)
- 3) やサルボウガイ漁業の復活について鳥取県・島根県の取り組みについて
島根県農林水産部水産課の若林英人グループリーダーから ppt 資料をもとに紹介がなされた。(資料は別掲)

これらの話題提供を受けて、國井秀伸事務局長の司会のもとで自由討論が行われた。

議事(17:00~17:30)

中尾 繁協議会会長の司会のもとで、中海自然再生事業実施計画（案）作成に向けての討議を行った。

事務局（國井事務局長）から昨年度に環境省の担当者の意見を踏まえて4つの実施計画案に練り直すことを協議会に報告し、了解を得ていること（昨年度第10回協議会議事録に掲載）、これを素案として今後、実施計画案を作成することになるとの説明を受け、4つの案（①海藻類の保全再生事業、②海藻類の回収および回収海藻の利用事業、③砂浜の保全事業、④浚渫窪地の環境修復事業）について、それぞれWGをつくって進めて行きたいとの提案がなされ、承認された。具体的には事務局が中心となってアドバイザー会議のメンバーと相談し、各行政の意見を求めた上で人選を行うことになるが、協議会構成員の積極的な参加（自薦）を求めたいとの事務局長からの発言もあり、次回の協議会での正式発足を目標に進めることとした。

報告

次回（第3回）協議会は10月8日（土）、13時（予定）、米子（その後、鳥取県西部総合事務所会議室が確定）で行う。

（以上）